



SIGNIS JAPAN ニュースレター タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）
代表：千葉茂樹
発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42
聖パウロ女子修道会内
TEL 03-3479-3941 E-mail：info@signis-japan.org
http://signis-japan.org/

主のご降誕のお喜びを申し上げます！

寒い夜空の下、旅の途中の小さな馬小屋で若い夫婦ヨゼフとマリアの初めての子どもとしてこの世に生を受けた、幼子イエス。何の力もない弱い存在、しかし、その弱さの中にこそ神の業が示されました。イエス・キリストがもたらした光が私たちの心の闇を照らして下さいますように。そして、私たちがその灯火を次の人へとつないでゆくことができますように。



カトラジ！ 始めました

祝！「カトラジ！」は、12月5日、シグニスアジア・メディア賞、ラジオ5分間部門で最優秀賞を受賞しました！

「カトリックの青年でラジオをやったら面白いんじゃないか。」突然思い立ってから約一年。シグニスジャパンからいただいた、シグニスアジアへのプロジェクト申請のお話にも後押しされて、2014年9月20日、ついに青年による青年のためのインターネットラジオ「カトラジ！」の配信がスタートした。



コンセプトは「福音宣教」。YouTubeを通して福音の喜びや教会の魅力を、地域、宗教を超えた多くの若者に伝えるため、様々なコンテンツを用意している。人生の悩みに司祭と青年が向き合う「お悩み相談室」、聖歌を紹介する「今夜の一曲」、人生を変えた映画について語る「シネマの晩餐」、聖書をもとにユーモアを届ける「カトリック大喜利」、被災地の生の声を伝える「カマラジ」など多彩なラインナップだ。

企画運営に携わる青年は全くの素人。始めのうちはハブニングが絶えなかった。それでも頑張ろうと前を向けるのは聴いてくださるリスナーの方々の時に厳しく優しい声、支え見守ってくださる方々の温かい眼差しのお陰だ。

「青年」をターゲットにはしているが、多くの年代の方に聴いていただけて嬉しく思っている。今後もカトリックらしさ、若者らしさを追求しつつ、喜びの福音を分かち合っていきたい。

カトラジ！広報部 稲畑 愛子/ 目黒教会・湖西 紋子/ 高円寺教会

☆カトラジ！は毎週土曜日午後11時から配信中！

カトラジ！ Youtube オフィシャルチャンネルからご視聴ください。

<https://www.youtube.com/channel/UCyLsH93y0y482d0ZLbLJEtW>

今年も『いのフェス』に参加しました

シグニスジャパンは、昨年に引き続き、2014年9月23日（火）秋分の日、早稲田奉仕園にて開催された、『いのフェス』に参加しました。シグニス紹介パネル展示、「私の好きな映画！」掲示板（写真右）、SNN製作のDVD上映、シグニスTシャツ販売、などなどを行いました。



「私の好きな映画！」掲示板は、会場に来られた方々に「私の好きな映画」について聞くというコーナーでした。今年のシグニスの新年会、賛助会員交流会、Facebook上で行ったアンケートなどをもとに私たちの方で30点くらい用意しておいたので、もしその中に好きな映画があったら、「いいね」シールを貼ってもらい、なかったら手書きでポスターふうのものを作って貼ってもらうという趣向で行いました。来場者参加型のなかなか面白い展示となりました。何よりも来場された方とふれあいがあるというのがいいと思いました。

『いのフェス』の企画運営はプロテスタントの若い方々が行って、私たちは昨年からそこに参加する形で行っています。昨年は宮代真司さんと晴佐久神父の対談があって、そこに人気集中していましたが、今年はスコット・ホールの中の企画は有料だったためか、昨年ほどの盛り上がりはありませんでした。

昨年、同じブースだったカトリックユースの方々は、今年は独自のブースをシグニスとなりにつくり「カトラジ」の案内をしていました。彼らはカトラジのキャラクターの「缶バッジ」（写真左）を作って配布していました。このユースの人たちと交流ができたというのもよかったと思います。



ただ、昨年は仏教関係の方もブースを出しておられたのですが、今年はありませんでした。そのかわり聖公会関係の方々がブースを開設していました。特に太いたこ糸を使ってアングリカン・ロザリオを製作するという企画に結構人気が集まっていた。（土屋）

「カロル - 教皇になった男」日本語字幕版 DVD 完成に当たって

この DVD は今年 4 月に聖人に列せられたヨハネ・パウロ二世の青年時代から教皇になるまでの約半世紀の壮大な歴史ドラマで、特に第 2 次大戦でのポーランドのナチス支配、大戦後のソビエト支配の過酷な歴史を原寸大に感じることができます。その中で苦悶しながらも成長し、銃ではなく愛と祈りで人々を導いていったカロル（後の聖ヨハネ・パウロ二世）の姿が生身の人として描かれます。

教皇になられて「空飛ぶ教皇」と異名をとられた、日本にも来られた、サン・ピエトロ広場で狙撃され危うく命を失うところだったことはよくご存知でも、教皇になられる前については、ポーランド生まれという事しか知らないという方が大半ではないかと思えます。信者の方も、信者でない方も、ひとりの人間の偉大な魂の旅路と当時の東ヨーロッパの政治情勢、民衆の苦しみ、歴史の切迫した状況に触れて胸がドキドキすることでしょう。常ならぬ感動をお約束します。是非、ウェブサイト www.karoldvd-jc.org で、予告編や「私も見ました！」のページをご覧ください。

この映画はポーランド・イタリア合作で 2005 年に欧米地でテレビ放映され、大反響があり、DVD 化されていましたが、日本語版がなく大変口惜しい思いをしていたものです。習志野教会の信徒有志が火付け役となり、上智の卒業生中心で構成する「ピタウ先生が語る会」の有志で何とか日本で多くの人々にこの映画を観て貰いたいと「カロル日本語字幕版 DVD 製作委員会」を組織し、著作権を取得、習志野教会有志の翻訳をベースに字幕化に取り組み、7 回もの字幕修正を経てこの 10 月にようやく完成し、頒布に漕ぎ着けました。お陰様で大変好評で、全国から申し込みがあります。種々の販売努力もあって順調な販売が続いており、当初目標の 2,000 枚はもしかすると年内に達成できそうな勢いです。上智大学の後援、カトリック中央協議会広報の推薦をいただきました。また、シグニスジャパンからは真っ先に推薦をいただき、とても感謝しております。

原題 : Karol: A Man Who Became Pope / 監督 ジャコモ・バッチアート / 2005 年 / ポーランド・イタリア合作

「カロル日本語字幕版 DVD 製作委員会」 代表 町田雅昭/調布教会（シグニスジャパン会員）

映画で振り返る 2014 年

シグニスジャパンでは映画チームを中心に、毎年たくさんの映画を見ています。今年も、邦画洋画を問わず、またジャンルを超えて、多くの優れた作品に出会うことができました。特に印象に残った映画についてご紹介します。上映終了のものもありますが、機会がありましたら是非ご覧ください。

『家路』 監督 久保田直 / 2014 年 / 日本映画 / 118 分

故郷を捨てた弟が、東日本大震災を機に放射能に汚染されている地域に帰って来た。彼は、誰もいなくなった故郷で、苗床を整え、田を耕し、米を作る。一方、先祖代々からの土地を守り、家族を守ってきた兄は、震災後に土地を離れ、仕事を失くして、仮設住宅に暮らしていた。弟の帰郷によって、バラバラになった家族の心が一つになり、バックに流れる『家路』の曲が何とも切なく、心に響く。

劇映画であるが、実際今もこのような現実を生きている人、震災がなければ人々が生活しているはずの街が崩れている様をリアルに表現している。弟が、汚染されているはずの食物を実においしそうに食べているシーンには、思わず魅入ってしまう魅力を感じる。



『石川文洋を旅する』 監督 大宮浩一 / 2014 年 / 日本映画 / ドキュメンタリー / 104 分

「私は、カメラマンとして侵略する側の目線で写真を撮っていた。その痛みを常に感じている」と石川文洋氏は語る。彼は、1938 年沖縄に生まれ、世界一周無銭旅行を夢みて日本を脱出し、64 年から南ベトナム政府軍・米軍に従軍し、戦場カメラマンとしてベトナム戦争を世界に伝える。彼は、「軍隊がいるから、戦争が起こる。」と言い、アメリカ軍の酷さを知りながら、アメリカ軍に付いて行った辛さを感じつつ撮っていった。石川さんのカメラを凝視するベトナムの少女の写真、沖縄の震災ながら水を飲んでいる男の子の映像が、最後に写される。2 枚の写真に強いメッセージが込められていることが伝わってくる。見たくないものでも目をそむけずに見なければ、と思わせる映画。



『うまれる ずっと いっしょ』 監督 豪田トモ / 2014 年 / 日本映画 / ドキュメンタリー / 123 分

血は繋がっていない子を育てる父親は、本当のことをこの子に伝えるのが怖いと言う。障害を持つ子を育てる家族、辛いことを耐えていると心が「ズーン」とし、泣くという母親、同時にその子を愛おしく抱える父親の姿。さらに、愛する家族を残して旅立とうとするなか、これから生まれて来る孫の誕生を待っている妻を見送る夫。これらの 3 つの家族を取り上げながら、生まれる命、旅立つ命すべてが「家族」の大切な繋がりを映しながら、生まれる喜びが感じられる。とにかく、日常的に起こるシーンで分かりやすいので見やすい。ラストシーンの、障害を持った人も、そうでない人も一緒に踊るフラダンスは印象的である。



『谷川さん、詩をひとつ作ってください』 監督 杉本信昭 / 2014 年 / 日本映画 / ドキュメンタリー / 82 分

監督、杉本信昭氏は、詩人、谷川俊太郎氏が「詩」を創るところを映画に撮りたいと考え、映画の最後には新しい詩を作してほしいと谷川氏に依頼する。そしてカメラは、東日本大震災に遭った高校生、目の不自由ないたこ、有機農家で働く青年とその父親、諫早の漁師、大阪の日雇い労働者の話す言葉を追っていく。

谷川氏は、「詩は信用できない。受け取る人がどのように感じるかはわからない」と語るが、彼の朗読する詩は登場する人々の心の声とかさなってゆく。人々の語る「本物の言葉」、語っても言葉にしきれない思い。谷川俊太郎氏がその人々の思いを受け止め、その生き方に尊敬をこめて作られた新しい詩は力強く、優しい。詩の生まれるラストは圧巻である。鉄腕アトムの特典ソング「空をこえて ラララ星のかなた・・・」が、谷川俊太郎氏の作詞ということも嬉しい発見であった。

『大いなる沈黙へ』 監督 フィリップ・グレーニング/2005年/フランス・スイス・ドイツ/169分
169分という長い映画にもかかわらず、劇場の外にも続く長蛇の列。さらに、チケットを得るのさえも難しい映画。何が人々をこの映画に惹きつけたのだろうか。

多分、修道院の生活はどうなっているのかという、私たちが理解できない彼らの生活を覗きたい、彼らが何を食べているのかを立ち上がって見たくなる、そんな興味をそそる映画だからであろう。入会した青年は、どのように過ごしていくのだろうか。トラピストとどう違うのか。沈黙生活の中、唯一会話ができるレクレーションの時間に子供のようにはしゃぐ姿。彼らの生活は、物があふれた時代に逆行している世界であり、沈黙が恵み、喜びとなるか枷(かせ)となるかという、個人と神との究極の世界である。そんなベールに隠された世界に初めてカメラが入ったのであった。



『バチカンで逢いましょう』 監督 トミー・ヴィカント/2012年/ドイツ/105分

夫を亡くしたマルガレーテがローマに行き、法王に逢うという物語。彼女にはバチカンに行きローマ法王に逢って罪を告白し悔い改めなければ、という秘密があった。ローマで偶然入ったドイツ料理のまずさに、彼女は、そのレストランのシェフとなって働き、倒産寸前の店が繁盛する。はたして彼女は、ローマ法王に逢えるのか。

とにかく、主人公を演じる役者が面白い。彼女がお菓子を作って食べさせるシーンが印象的。また、彼女の心根の美しさに感動がスクリーン全体を包むそんな映画。



『あなたを抱きしめる日まで』 監督 スティーヴン・フリアーズ/2013年/イギリス・アメリカ・フランス合作/98分

10代の頃に未婚の母親となったフェロミナは、家を出されて修道院に預けられ、そこでアンソニーと言う男の子を生む。しかし、アンソニーが3歳の頃、アメリカの裕福な家庭に引き取られる。50年経ち、彼女は自分が産んだ子を探しに行く。そんな彼女に興味を持ったジャーナリストとの出会いがドラマを膨らませる。当時のアイルランドの時代背景を描いている実話をもとにした感動のドラマ。

シグニスジャパン 映画チーム

会員紹介 千葉純章 (カトリック菊名教会)

SIGNIS 活動に参加しませんか!!



SIGNIS の活動には、教会ホームページ作成のご縁から以前より伺っておりました。土屋至さんのご紹介で参加させていただいて以来、1年が過ぎてしまいました。では私個人として素晴らしい活動ができたかといいますと、多少“まゆに唾”がつきます。仕事もあり(いいわけですが)能力的なものもあり、正直目に付く活動はできていません。一番の活動といえば、集会后に皆と遅い夕食を食べるときに、楽しく語らいながらお酒を飲むこと。いろいろな話題があふれ、楽しい時間です。(笑)

SIGNIS は、それぞれのタレントを生かしながら、無理をせずに活動できる場と思っています。話し合いの中から、できることを少しずつ分かち合って活動する。そんな場であると感じました。ですから、こんな私でも快く迎え入れてくれたことを感謝しています。SIGNIS は、個人会員とともに趣旨に賛同していただける賛助会員を募集しています。

商業ベースにはのるることのない素敵な映画も見ることができます。

神さまの呼びかけに集まった小さなグループ。みなさんも参加してみませんか。

賛助会員募集

一緒にメディアを通して福音を伝えていきましょう!

私たちSIGNIS JAPANの活動をサポートして下さる賛助会員を募集しています。

会員の方には、ニュースレター「タリタ・クム!」をメールまたは郵便にてお届けする他、今年も賛助会員と共に捧げる感謝のミサを東京地区で予定しています。詳細は賛助会員の皆さまにご連絡させていただきます。

年会費一口 3,000 円。ご入会いただける方は、氏名、住所、連絡先を下記までお知らせ下さい。

どうぞよろしくお願いいたします!

〒107-0052 東京都港区赤坂8-12-42 聖パウロ女子修道会内 SIGNIS JAPAN / info@signis-japan.org

会費およびご寄付は、下記へ振込みをお願いいたします。

銀行振込 三菱東京UFJ 銀行 六本木支店 普通 1679019 SIGNIS JAPAN 代表 千葉茂樹

郵便振替 口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 千葉茂樹

